



教育活動推進テーマ

「笑顔あふれるみんなの学校」

教育活動スローガン 認めて・ほめて・励まし・育てる

府中市立府中第一小学校 統括校長 宮内 和夫

1 学校経営目標

府中市立府中第一小学校は、第3次府中市学校教育プランの目指す人間像【人権感覚と規範意識】他者も自分も大切に、思いやりと規範意識のある人 【社会的な資質・能力】社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人、【確かな学力】自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人を受けて、本校の教育環境と協力的で温かな地域、学区内の自然環境や文化的環境を十分に生かし、小学校教育の目的である日常生活に必要な基礎学力の定着と望ましい人間関係や自主及び自律の精神を育む教育活動を推進する。そして、府中版コミュニティ・スクールの機能を活用し、保護者・地域から信頼される学校づくりを教育活動推進テーマ「笑顔あふれるみんなの学校」、教育活動スローガン「認めて・ほめて・励まし・育てる」の下、進めていく。

2 学校経営目標を達成するための基本的な考え方

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神とともに、責任と協力を重んじ、適切な判断力と創造性に富んだ情操豊かで自主的健康な児童の育成を行うため、次の通り学校の目標とこれを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。【 】内は目指す資質・能力。

- | | |
|-------------|------------------|
| ○よく考える子 | 【問題解決能力】 |
| ○なかよくたすけあう子 | 【協働して物事をやり抜く実践力】 |
| ○つよいからだの子 | 【心身ともに伸びやかな様子】 |
| ○心ゆたかな子 | 【人間関係形成力】 |

(2) 目指す学校像

学校の教育活動は子供たちのためにある。「それは子供たちの学びと育ちに必要か？」を第一の判断基準軸として教職員が一致協力し、教育課程を編成・実施していく。子供にとっても保護者にとっても、地域にとっても、所属職員にとっても信頼と誇りのもてる学校づくりを進める。二者間の「WIN-WIN」ではなく、「売り手（教職員）良し、買い手（子供・保護者）良し、世間（地域）良しの三方良し」を目指す。以下に、目指す学校像の姿、3点を示す。

①安全・安心・快適な学校～迅速・丁寧な対応～ ②所属職員が切磋琢磨し高め合う学校

③地域・保護者と連携協力する学校

3 中期的目標と今年度の重点及び方策

(1) 中期的目標

①安全・安心・快適な学校 ～迅速・丁寧な対応～ ●子供の心身のケアに教職員が一致団結して取り組む。 ●子供の人権が守られる学校環境づくりを推進する。 ●基本的生活習慣の育成及び定着を推進する。 ●危機管理を徹底する。	②所属職員が切磋琢磨し高め合う学校 ●授業改善に取り組む教師 ●子供の気持ちに寄り添う指導 ●各主任を中心にしたチームとしての対応・情報の共有化 ●学年会や校務分掌を中心としたOJTの充実と学校の運営組織力向上	③地域・保護者と連携協力する学校 ●学校と家庭と地域が協力して子供を育てる。 ●保護者・地域に学校の様子を伝えていく。 ●府中版コミュニティスクールの更なる発展を図る。 ●わかば鼓笛隊活動や地域防災会議の更なる充実を図る。
--	---	---

(2) 今年度の重点及び方策

① 安全・安心・快適な学校 ～迅速・丁寧な対応～

「目をかけ、声をかけ、心をかけて育てる」

●子どもの人権が守られる学校環境づくりを推進する。

- ◇安心して登校できる学級づくりを進める
- ◇いじめ、登校渋り、不登校への適切な対応
- ◇規範意識の育成及び定着
- ◇服務事故防止の徹底（凡事徹底）

◎サポートルームの適切な運営

～登校渋りが始まった際に速やかに管理職を含めて情報共有し学校・保護者と相談しながらその時点で最適な対応を取っていく。

●基本的生活習慣の育成及び定着を推進する。

- ◇挨拶、廊下歩行、整理整頓、丁寧な清掃
- ◇早寝、早起き、ノースクリーンデーの取組

●危機管理を徹底する。～悪い情報（学校に危機的なこと）ほど早く管理職に伝わる組織。

- ◇オン・ザ・フライ・ミーティングの活用 「とりあえず」「一報」「ちょっと気になることが…」
- ◇報告、連絡、相談、記録（報連相記）を日常的に行う。毎週金曜日の生活指導夕会での情報共有。
- ◇子供の情報の共有化（マイナス情報だけでなく、「イイね！」の共有。職員室での子供自慢。）

【今年度の主な成果〇と課題及び次年度の方向性▲】

〇年度当初は児童のけがや問題行動に対しての受け止め方の軽重に個人差があったが、初動での事実確認や対応確認を管理職、生活指導主幹、学年主任、養護教諭、学年団で組織的に解決に向かえるようになった。大人も心理的安定を保てるように組織的に対応することにより担任が一人で課題を抱え込むことが無かった。特に初任者、経験の浅い産育代替教諭を集めて、児童や保護者に関して気になることがあれば遠慮することなく管理職に報告・連絡・相談をすることを年度当初に確認したところ、報連相のハードルが下がったようで若手教員がオンザフライミーティングとして校長室に来るケースも多々あった。都度、事案対応の価値付けを行い自信を付けさせていくことができた。

〇生活指導夕会時に各学年での生活指導案件の情報共有ができています。

▲次年度は情報共有すべき基準を生活指導主幹から示させて全教職員で確認し、会の時短やヒヤリハット集として残せるようにしていく。生活指導主幹などからの夕会時のいじめミニ研修を実施させるなど、組織的な生活指導がより充実するようにもしていく。

〇サポートルームや保健室使用のルール原則を定めながらも個別に本人・保護者、担任、養護教諭、SSWと相談するケースも設定し、登校渋りの児童も登校や教室参加、教室復帰を果たすことができています。

▲登校渋りが始まった際にできるだけ速やかに管理職を含めて情報共有し学校・保護者と相談しながら適切な対応を取っていくこと。月例で学年別やブロック別の不登校対策委員会を開催し、情報共有だけでなく今後の対策計画や対策改善を回せるようにしていく。

▲家族の問題や医療や福祉的な問題を抱えた案件も散見されている。外部との連携や市教委との連携をより一層進めていき、子供第一の対応を全校で取り組んでいきたい。

② 所属職員が切磋琢磨（自己研鑽⇄相互研鑽）し高め合う学校

【一小プライド】「愛と情熱、敬意と誠意」をもって職務に臨む

●授業改善に取り組む教師

- ◇学習指導要領に示されている主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- ◇体験的、課題解決的な学習の充実
- ◇子供が主体的に選択/判断する教育活動の充実

●府中市教育委員会より示されている義務教育9年間の系統的・継続的な取組により、特に重視して育成を目指す資質・能力「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自ら考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」を育成するために以下の4つの視点を教育活動に取り入れて実施していく。

- 〇発見すること（意欲・好奇心・課題発見力等）
- 〇対話すること（コミュニケーション力・多様性等）
- 〇決定すること（自己調整力・批判的思考力等）
- 〇表現すること（実行力・表現力・責任感等）

◎全教職員で6年生のリーダー性を伸ばしていく

◇子供の自発性を尊重した意図的・計画的な年間を通したわかば鼓笛隊の指導・支援を音楽専科や高学年担任を中心に行う。

・委員会・クラブでの指導・支援の充実

●子供の気持ちに寄り添う指導

◇心情的共感と客観的事実についての指導を行う。

◇熱心な無理解者になっていないか常に自己の指導を振り返る。

●各主任を中心にしたチームとしての対応・情報の共有化

◇リーダーシップとフォロワーシップ 「チームのために自分は何ができるか」

◇個人最適（独善的）ではなく、全体最適の視点で思考し行動する。

◇ケア（気遣い、気働き）、同僚性の更なる醸成

●OJTの充実と学校の運営組織力向上

◇学年会、専科会、学校運営組織がOJTであるという意識醸成。

◇企画会での学年・専科主任育成とOJT研修会での個人の能力・資質育成と組織貢献力向上を図る。

◇主任・副主任体制の良さを生かした分掌運営を常に改善しながら進めていく。

◆ミドルリーダーの育成を主幹教諭・指導教諭が意図的・計画的に進めていく。

●道德の交換授業や教科単元の交換授業を計画・実施し、指導力向上や児童理解を深めていく手立てとする。

【今年度の主な成果○と課題及び次年度の方向性▲】

○年間を通じて算数で府中市グランドデザインで示されている4つの視点や「対話的な学び」を重点とした授業研究に取り組み、子供たちの変容が見られた。学年団としての授業改善への取組の充実が図られた。

▲授業観察を校内研究に組み込み、教員相互の授業参観の充実を企図したが、充分とはいえなかった。次年度はより効果的な教員相互の授業参観体制が実施できるようなシステムを研究部にも提案させていく。教員の授業改善への意欲をより涵養していきたい。

○学年副主任や分掌副主任ポストに就かせた者の当事者意識が高くなった。

▲次年度は分掌のW主任制も取り入れて効果的な運営管理を行わせていく。

▲課題発見・解決策提示ができるようなミドルリーダー育成の時間と場の確保すること。学年や分掌副主任の活躍の機会を設定していくこと。教育課題対応や現教職員構成で、より効果的な教育活動ができるように最適な分掌組織を単年度単位で副校長・主幹に年間を通して検討をさせていくこと。

③地域・保護者と連携協力する学校

「売り手（教職員）良し、買い手（子供・保護者）良し、世間（地域）良しの三方良し」

●学校と家庭と地域が協力して子供を育てる

◇保護者会や学校行事、地域行事、スクールコミュニティ（SC）協議会。わかば鼓笛隊活動

●保護者・地域に学校の様子を伝えていく

◇学校便り、学年便り（学年の窓）、学級通信、ホームページによる啓発

◇PTA本部会の活用、SC協議会、保護者会

◎学校HPやスマート連絡帳の更なる活用

●地域人材・資源活用 地域コーディネーターを中心に以下の活動を推進していく。

◇学校支援ボランティア活動

図書・外国語・安全パトロール・芝生・園芸などのボランティア活動に保護者を中心に参加していただき、地域・保護者から学校教育を支えていただく。

◇地域防災会議

今年度は、組織や備品の確認を行い。避難所開設訓練ができる状況であれば実施していく。

◇持続可能な社会の創り手となる資質・能力を育む教育を地域人材や資源等を有効に活用して推進する。

◎市制70周年に関する「未来へつなぐ府中2020レガシー」や「けやきタイム」の授業と関連して教育活動の充実を図る

【今年度の主な成果○と課題及び次年度の方向性▲】

OSC 協議会、グリーンキーパー会議、PTA本部との連携、地域ボランティアとの連携、保護者会などの充実により、学校の教育活動を無事に滞りなくすすめることができた。

○月例発行の「学年の窓」を全学年A4サイズ1枚にまとめさせることにより、学校発信情報の精選を図ることができ、保護者からも「情報一覧性」の好評を得た。

○けやき並木 100 周年のわかば鼓笛隊記念パレードや記念講演会での表彰は児童の活躍を保護者・地域の皆様に見ていただくことができた。今後の継続活動について校内体制をしっかりと組んでいく。

○わかば鼓笛隊の「地域貢献」「社会参加」都教委表彰（団体受賞は都内で本校のみ）。第 61 代わかば鼓笛隊の市教委活動奨励賞表彰を受け、全校児童、保護者、地域の皆様の誇りとなった。

▲SC協議会を学校の行事や授業公開時に設定し、実際に子供たちの参観してもらった後に、学校経営に関する具体的なご意見をいただく場としていく。想定として 6 年生を送る会では 1 年生から 6 年生への育ちを見てもらい、子供たちの良さを改めて感じてもらうなど、わかば鼓笛隊以外の子供たちの育ちも積極的にアピールしていきたい。

▲ふるさと文化財施策である小中高連携事業「けやき並木保存プロジェクト」に環境委員会児童のみが関わるのではなく、全校朝会や授業を活用して全校で学び、保護者や地域へ発信するなどの学習材としていく。

④その他、第3次府中市学校教育プラン・教育施策等との関連

●特別支援教育の充実

◇専門性の向上。ICT 機器を活用した授業改善。特別支援教室における指導の充実。関係機関との連携。

◇レベル 1, 2, 3 を共通理解して指導・支援を組織的に進める。 ◇副籍交流の計画的な実施

●「未来へつなぐ府中2020レガシー」の推進

◇市制 70 周年を機にふるさと教育のさらなる充実、SDGs学習の継続・発展

●英語教育の充実

◇ALT の授業以外での効果的な活用の工夫を進める。

◇授業、TGG や「世界とつながる英語 Enjoy week」を関連付け、英語のコミュニケーションを図る機会の充実

●教職員の働き方改革【ライフワークバランスの実現】

◇出退勤の適切な管理。在校時間の目標明示 ◇超過勤務の著しい教員との月例面談

◆退勤時刻を意識して逆算をする働き方を進める

◇デジタル文書回覧や文書決裁を活用して会議減を図り、勤務時間内に個々が活用できる時間を増やす。

●小中連携・一貫教育の推進

・府中第一中学区における目指す子供像と育成・醸成すべき力を共有して 9 年間の「学び」と「育ち」の充実を図る。府中第一中学校での都教委研究指定校において講師講演会に参加するなどの連携や府中市防災の日に行う小中学校での一斉引き渡し訓練に向けた連携を進める。

【今年度の主な成果○と課題及次年度の方向性▲】

○主となるコーディネーターが会の進め方を上手に整理した成果が出て、校内委員会を活用して支援が必要な子供たちについて充実した話し合いができていた。

○小中連携の日や職場体験、中学校説明会などで相互連携が進んだ。次年度は都教委施策「デジタルを活用したこれからの学び」に関して府中第一中学校区 3 校で取り組み、本校は開発委員作成の授業プラン検証を行っていく。

○校内での毎朝の出欠席をタブレット端末で管理するシステムを 3 学期より実施している。欠席状況が全校で把握され、連絡無し欠席児童の家庭にも速やかな連絡が取れるようになり、安全管理が向上した。

○口頭による夕会時の連絡を時短、記録として残るように掲示板や回覧に切り替えさせている途上。教務主幹が「かえる（帰る）ボード」を作成し、個々の退勤時刻を可視化させたことにより「帰りやすくなった」との意見が多々聞かれた。

▲特別支援においては環境調整によって軽減される特性もある。多様な環境調整に関しても学び・実践していく必要がある。

▲前出の「かえるボード」により見通しをもって仕事を進める教員が増えた。超過勤務の軽減のために事務作業効率化に関して有効な手立てを互いに発信できる場を設けていく必要がある。

4 今年度の数値目標：関係者評価（①児童・②保護者）と自己評価（③教員）

【今年度は質問事項の変更に向けた移行期間】

【①児童(1～6年) ②保護者286名(家庭数813) ③教員43名】

(1)学校生活について ①②③肯定的評価 85%以上 ※アンダーラインは達成できなかった項目

設問 1 ①先生は、分かりやすく教えてくれる ②本校の教職員は子供たちに学習の基礎基本が定着するように努めている ③子供たちに学習の基礎・基本が定着するよう努めている。				設問 2 ①先生たちはあいさつやきまりをきちんと教えてくれる ②本校の教職員は挨拶や社会のルールを適切に指導している ③)あいさつや社会のルールを適切に指導している。			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
児童	94%	6%		児童	95%	5%	
保護者	95%	5%		保護者	94%	6%	
教員	100%	0%		教員	95%	5%	
設問 3 ①先生たちは相談や質問に丁寧に答えてくれる ②本校の教職員は相談事や問い合わせに適切に対応している(電話・連絡等) ③相談ごとや問い合わせに適切に対応をしている。(電話、連絡等)				設問 4 ①府中一小は特色があって、よい学校だと思う ②学校は特色があって誇れる良い学校だと思う ③特色があって 誇れる良い学校だと思う。			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
児童	88%	12%		児童	92%	8%	
保護者	92%	8%		保護者	92%	8%	
教員	98%	2%		教員	93%	7%	
設問 5 ①係活動や当番活動にすすんで取り組んでいる				設問 6 ① <u>おたよりや勉強道具などを忘れないようにしている</u>			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
児童	90%	10%		児童	84%	16%	
保護者	—	—		保護者	—	—	
教員	—	—		教員	—	—	
設問 7 ①友達と仲良くしたり、協力したりしている ②学校は自分も他の人も互いを大切にする心を育んでいる(人権教育) ③自分も他の人も互いを大切にする心を育んでいる。(人権教育)				設問 8 ①友達を大切にした言葉遣いや呼び方をしている			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
児童	94%	6%		児童	88%	12%	
保護者	88%	12%		保護者	—	—	
教員	100%	0%		教員	—	—	
設問 9 ① <u>漢字や計算の練習をよくしている</u>				設問 10 ①先生や友達にすすんであいさつをしている。			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
児童	78%	22%		児童	85%	15%	
保護者	—	—		保護者	—	—	
教員	—	—		教員	—	—	
設問 11							

①学校のきまりややくそくをきちんと守っている			
	肯定的評価	否定的評価	
児童	90%	10%	
保護者	—	—	
教員	—	—	

【設問 1、2、4】に関して児童・保護者・教員の肯定的評価が高い数値になったことは大きな成果である。学習面、生活面共に今後も引き続き丁寧な指導を続けていく。

【設問 3】では児童からの肯定的評価が88%であるが、教員は98%であり、差が10%となっている。子供たちの安全・安心につながるような支援をより充実させていく。

【設問 6、9】に関しては個別に有効な手立てを探っていく必要がある。

【設問7】の保護者回答に関しては85%以上だったが学校での人権教育実践を保護者により周知していきたい。

【設問10、11】に関しては設問2での指導の成果が児童の行動実践に表れていると考えられる。

(2)家庭での生活や学校に来るとき ①②③肯定的評価 85%以上 ※アンダーラインは達成できなかった項目

設問 1 2 ①学校に来ることがたのしい ②お子さんは楽しそうに学校に通っている ③子供たちが楽しく学校生活を送れるよう工夫して指導し、その結果楽しく学校生活を送ることが出来ている。				設問 1 3 ①家でも勉強をしている(宿題を入れて:学年×10分) ②お子さんは家庭学習をしている。(宿題を入れて:学年×10分) ③子供たちが意欲をもって家庭学習に取り組める工夫をしている。(宿題を含め10分×学年ぐらいの時間)			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
児童	80%	20%		児童	82%	18%	
保護者	91%	9%		保護者	82%	18%	
教員	96%	4%		教員	96%	4%	
設問 1 4 ①自分の安全は自分で守ろうとしている ②お子さんは安全に気をつけている(交通事故、不審者など) ③子供たちが自分の安全は自分で守り生活できるように指導している。(交通事故、不審者対応等)				設問 1 5 ①あいさつをきちんとしている ②お子さんは家でもきちんとしたあいさつができる。			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
児童	96%	4%		児童	88%	12%	
保護者	92%	8%		保護者	80%	20%	
教員	96%	4%		教員	—	—	
設問 1 6 ①家でも読書をしている ②お子さんは家でも読書をしている				設問 1 7 ①相手を大切に言葉遣いや丁寧な言い方をしている ②お子さんは相手を大切に言葉遣いをしている			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
児童	72%	28%		児童	83%	17%	
保護者	57%	43%		保護者	76%	24%	
教員	—	—		教員	—	—	
設問 1 8							

①家で学校のできごとや友達のことを話す			
②お子さんは家で学校の出来事や友達のことを話す			
	肯定的評価	否定的評価	
児童	83%	17%	
保護者	82%	18%	
教員	—	—	

【設問12】に関しては教員自らがこの児童の評価をしっかりと受け止めて児童の期待に応えるような楽しい学校生活を設定し、児童評価が100%となるようにする必要がある。そのことが不登校減にも繋がっていく要因であることを示していきたい。

【設問13】については下校後の習い事も関係していると考えられるが、家庭学習の大切さを継続して啓発していく。

【設問14】に関しては、高い数値となった。今後も安全教育の年間指導計画をブラッシュアップしてより効果的に指導できるようにしていく。

【設問15】に関しては保護者の回答が低くなった。学校と家庭で連携してあいさつに取り組んでいきたい。

【設問16、17、18】に関しては、来年度以降の課題としていきたい。

(3) 学校運営 ②③肯定的評価 85%以上 ※アンダーラインは達成できなかった項目

設問19 ②学校は保護者や地域に教育の方針を分かりやすく伝えている ③保護者や地域に教育の方針を分かり易く伝えている。				設問20 ②学校は保護者や地域と協力をして教育活動をすすめている ③保護者や地域と協力をして教育活動をすすめている。			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
保護者	92%	8%		保護者	90%	10%	
教員	100%	0%		教員	100%	0%	
設問21 ②学校は教育活動の様子がわかるようにしている(学校公開、たより、HPなど) ③ 教育活動の様子がわかるようにしている				設問22 ②学校は健康や安全に気をつける指導をしている ③健康や安全に気をつける指導をしている。			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
保護者	96%	4%		保護者	95%	5%	
教員	98%	2%		教員	100%	0%	
設問23 ②本校教職員は子供の能力や努力を適切に評価している ③子供の能力や努力を適切に評価している				設問24 ② 本校の教職員は一人一人の子供のよさを認め励ますなど大切にしている ③一人一人の子供のよさを認め励ます等大切にしている			
	肯定的評価	否定的評価			肯定的評価	否定的評価	
保護者	94%	6%		保護者	94%	6%	
教員	98%	2%		教員	98%	2%	

学校運営に関しては、保護者と教員の意識の差はほとんど見られない。全設問で肯定的評価が90%以上と良好な評価を得ている。学校公開や学校行事、メール配信、保護者会、各種通知等で情報発信を行っていったことの成果だと考える。より一層保護者との情報連携、行動連携をより充実させていきたい。

【総括：1年間を終えて】

府中第一小学校学区は学校教育に関心が高く、協力的な保護者・地域である。親子三代で府中第一小学校という家庭も多くあると共に新規開発の高層集合住宅に移られてきたご家庭も多くある。学校への期待は多様化しているが、その期待を裏切らないように日々気持ちを新たにしていって着任一年目の学校経営に取り組み、経営目標を達成できるように努力してきた。

今年度、新規採用教員4名、産育代替教諭6名、育業明け1名、異動者5名というスタートだったが、教職員の精神的疾患による休職者が0名であったことは学校経営上で大きなアドバンテージとなり、子供たちが安全・安心、快適な生活を過ごすことができた。これも教職員協力体制の良さの表れである。教職員の同僚性の高まりに感謝である。今年度末、来年度末と必異動者も多くなるが、チャンスととらえて府中第一小学校として更なる組織的な進化を遂げられるように校長としてのリーダーシップ・フォロワーシップを発揮していきたい。

学校運営についての教員の肯定的評価が全て100%となるように、教員がプライドを持って働ける職場作りが達成できるように、尽力していく所存である。

府中市の旗艦校としての役割を果たすためにも『伝統と進取』、『凡事徹底～府中一小的ABC(Aあたり前のことを Bばかりにせず Cちゃんとやる)』をキーワードに府中市教育委員会、地域、保護者と情報連携・行動連携を図っていく。